九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

8世紀インド仏教における全知者思想の研究

佐藤，智岳

https://hdl.handle.net/2324/4474899

出版情報：九州大学，2020，博士（文学），課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（3）

（様式６－２）

氏　　名	佐藤　智岳
論　文　名	8世紀インド仏教における全知者思想の研究
論文調査委員	主　査　九州大学　准教授　片岡　啓 副　査　九州大学　教授　岡野　潔 副　査　九州大学　教授　横田　理博 副　査　九州大学　准教授　藤井　倫明

論　文　審　査　の　結　果　の　要　旨

上記の論文は、紀元後8世紀ナーランダー僧院の学匠カマラシーラ著『真理綱要疏（タットヴァ・サングラハ・パンジカー)』の最終章「全知者章」を取り上げ、原典校訂・和訳・思想史研究を行ったものである。500頁以上にわたる大部の論文である。

本研究は論文篇・校訂テクスト・訳注の三部に分かれる。まず第Ｉ部「論文篇」において著者の佐藤氏は、資料状況・先行研究等の関連情報を整理した後、本論文の取り組む課題を明らかにする。そして、バラモン教と仏教の間でなされた論争の経緯を明らかにすべく、「全知者による説法」「全知のあり方」「慈悲」「全知者論章式」という四つのトピックについて詳しく論じる。その中で佐藤氏は、8 世紀当時の「全知者」をめぐる論争史の解明に資する諸資料を回収し、パズルのピースを慎重に並べ直す。先行諸学匠の著作と同時代の諸資料をも広く渉猟した4章に渡る各論考は、概念史を的確に整理することに成功している。

『真理綱要疏』のサンスクリット原典批判にあたって佐藤氏は、先行刊本2本、最も重要な写本であるジャイサルメール写本、およびチベット訳を参照する。全知者章の全体をカヴァーする 498 詩節への注釈全体に渡る佐藤氏の校訂は200頁強に及ぶ。現在の研究水準に耐え得る、資料批判として量的にも質的にも今後のインド仏教史研究に対する貴重な貢献と見なしうる。LaTeX を用いて美しくレイアウトされた校訂本は、詳細な異読情報のみならず、関連する並行句などの情報も載せており、批判的に資料を読み解きたい読者に新設である。

原典批判を踏まえた第Ⅲ部「訳注」では、詳細な科段（synopsis）作成と共に、精確な和訳が提供される。量的に膨大な全知者章の森で先行研究の一部の記述には迷子になるものもまま見られたが、今後は、この詳細な科段により、後続研究者は正確な俯瞰図を得ることになる。クマーリラ等の敵論者からの批判である前主張部と、それへのシャーンタラクシタとカマラシーラによる応答である後主張部との対応づけが正確になされた本訳注は、今後の研究水準を大きく引き上げよう。また、仏教の教理のみならず、バラモン教聖典解釈学のクマーリラ等からの批判のポイントを正確に押さえた本和訳は、今後のインド仏教史研究に資するところ大である。

大部の本論文であるが、巻頭には詳細な目次が付され、全体の構成も分かりやすい。各資料の扱いも慎重かつ丁寧であり、佐藤氏が新たに提示する知見はいずれも説得力をもつ。原典と和訳は、今後、斯界で長く使われる基礎資料となるはずである。本学の博士論文として十二分の出来であり、博士号を認めるに値する論文と判断する。